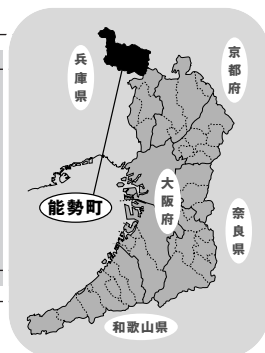


わたしのまちのPR

能勢町編



能勢町は、大阪府の最北端、丹波高原の南に位置し、標高500～700mの緩やかな北摂山系に囲まれ、豊かな自然と多くの文化遺産に恵まれた美しい里山の町です。南は豊能町、東は京都盆地、西は六甲山地、北は亀岡盆地に接しています。

国道173号や国道477号などが南北方向に通り、池田市や大阪都心と丹波・日本海方面とを結んでおり、東西には主要地方道茨木能勢線や府道亀岡能勢線が通っています。

この能勢町の魅力や特色について、総務部総合企画課課長の清水さんにお話をお伺いしてきました。



本日はどうぞよろしくお願いします。

早速ですが、能勢町の歴史を教えてくださいませんか。

よろしくお願いします。

能勢町域では、縄文時代に、すでに人々が暮らし、「日本書紀」雄略天皇17年の条（5世紀頃）に「摂津国来狭々村」の古名で、文献に初めて登場します。

古来より、日本海方面から瀬戸内海方面への街道筋にあたり、京都から西国への通行路として開けた本町は、歴史的な文化財が数多く残っています。

また、浄瑠璃が江戸時代後期から約200年もの間、語り伝えられています。

このような歴史の中で、昭和31年、歌垣、田尻、西能勢の3ヶ村が合併して能勢町が誕生しました。それから3年後の昭和34年に東郷村が合併して、現在の姿に至っています。

次に、能勢町に残る、歴史的な文化財など、名所や旧跡について教えてくださいませんか？

まず、江戸時代に関西一の霊場として、多くの参拝者で賑わった「能勢妙見山」があります。山頂からは、摂丹連山、六甲の山々が一望のもとに見渡せ、厄難・病苦を避け、開運を願って今も大勢の人がお詣りされています。

日本棚田百選に選ばれている「長谷の棚田」は、静かな山あい、きれいな曲線美を見せています。夏の緑や秋の黄金色と四季の彩りも見事です。

樹齢1000年以上と推定される「野間の大けやき」は、野間神社の旧蟻無神社境内で神木として保護されてきた、能勢町の樹木のシンボルです。大阪緑の百選、国の天然記念物にも指定されています。

平成16年4月には、けやき資料館がオープンしま



長谷の棚田



野間の大けやき

した。ここには、けやきに関する資料や、能勢の民族資料などを展示しています。

また、能勢町内の各所には、石造美術品が多く散在しています。

「名月姫の墓」は、名月峠に残る小さな石塔ですが、この石塔には、平清盛の側室になることを拒否し、夫能勢家包への貞節を守り通して自害したという、名月姫の悲しい物語が語り継がれています。

「東郷城山の九重塔」は、能勢氏の本拠地、旧丸山城跡の南麓にあり、能勢地方では、ただ一基の九重層塔です。弘安11年（1288）建立の府指定文化財で、石造美術品の鑑賞には欠かせない古塔です。

他にも、能勢頼次が身延山から招いた僧日乾が、日蓮の分骨を奉安して以来、関西身延と称された名刹の「真如寺」には、府指定文化財の銅鐘があります。この梵鐘は、頼次が大坂夏の陣にて淀川源八堤より持ち帰った、もと長岡京市勝竜寺の梵鐘で、その整った形と澄んだ音色で親しまれています。

能勢町には、自然や歴史ある文化財など、たくさん見所があるんですね。他に、能勢町のおすすめスポットはありますか？

積極的に「能勢」をPRし、農業の振興と地域の活性化を目指して作られた、道の駅「能勢（くりの郷）」能勢町観光物産センターがお勧めです。

ここは、毎朝能勢町内で生産された新鮮な農作物を、栽培した生産者の方自身が出荷、陳列しています。農産物以外にも、農産加工品や、地酒、ミネラルウォーターなどの特産品も販売しています。

6月から11月の毎月第1日曜日には朝市が開催され、普段よりたくさんの野菜が並び、大勢の人で賑わいます。

名月姫の墓



また、レストランも併設しており、能勢でとれた新鮮な食材をふんだんに使ったふるさと料理を味わうことができます。

他にも、「能勢人形浄瑠璃」等、能勢町内の行事や施設案内、観光情報を提供する展示案内コーナーがあり、町内9ヶ所の観光コースをご案内する観光ボランティアガイドの受付も行っています。定期的に各種イベントが行われる多目的交流広場があり、「観る・食べる・楽しむ」の三拍子が揃った能勢の新名所になっています。

能勢町観光物産センター



農業振興とともに地域活性化にもつながっているんですね。能勢町では、他にも農業振興への取組をされているんですか？

そうですね。農業生産の基盤となる農地について、農業振興地域整備計画に基づき、優良農地として保全すべき農地を明確化し、農地、農空間の保全に努めています。

また、産地偽装問題などにより、食への信頼が揺らぎ、新鮮、安心、安全な農作物に対するニーズが非常に高まっている今こそ、能勢の真価を発揮すべ

きだと考えています。農産物出荷推進事業において、生産履歴記帳の徹底と記帳方式を統一し、農家の負担を軽減しつつ、安全な農産物の生産に傾注いただけるよう、必要な講習会や連絡調整を行い、全町的な生産力向上につなげるとともに、消費者から安心して支持いただける産地としての地域を確立していきたいと思っています。

次に、能勢町の特産品について教えてくださいか？

能勢町の特産品として、代表的なのは、能勢栗です。京阪神で昔から最高級の栗といわれてきた「銀寄」という品種で、実が大きく、ふっくらした甘味が人気です。

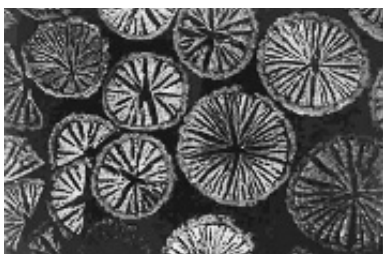
また、きれいな水と、よく肥えた棚田で育った能勢米は、食卓で食べられる他に、北摂の酒にも使用されています。

「池田炭」の名で知られる能勢の炭は、昔、能勢街道を通して池田・大阪方面に積み出されました。菊の花を思わせる断面の美しさ、燃え尽きた後に白い灰が残る風情、火付き・火持ちのよさから、現在も茶道などに珍重される、良炭です。

ふっくらと肉厚の椎茸の収穫体験や、芳香な香りの松茸狩りも人気でたくさんの行楽客の方でにぎわいますし、能勢の冬の味覚の代表格であるぼたん鍋は、締まった肉の甘味と、野趣にひかれて毎年大勢の方がぼたん鍋目当てに訪れています。



能勢栗



池田炭

他にも、原料の米の栽培から酒造りまで一貫して生産する蔵元のこだわりと夏の寒暖の差、冬の厳しい寒さの能勢の気候が作り出す純米酒や能勢の農産物を用いた加工品もたくさんあります。是非、能勢町にお越しの際は、ご賞味下さい。

どれも魅力的な特産品ですね。

能勢町といえば、浄瑠璃が有名ですが、浄瑠璃について教えてくださいか。

能勢の浄瑠璃は、江戸時代中期、文化年間（1804～1817年）から今日まで200年に渡り、受け継がれてきた伝統芸能です。能勢の浄瑠璃は、太棹三味線と太夫の語りによって物語が進行する“素浄瑠璃”といわれる洪い座敷芸です。

浄瑠璃



能勢の浄瑠璃の特質は、“おやじ”とよばれる制度で、いわゆる家元にあたりますが、世襲制ではありません。“おやじ”になる太夫は弟子を5、6人養成し、後継者の育成を行います。

新しい“おやじ”が誕生することで、それまで浄瑠璃とは縁のなかった町民を浄瑠璃の世界へと誘い込むことにより、浄瑠璃人口の拡大につながっています。

こうして現在でも、200名を超える語り手が存在し、町内各地区に太夫襲名の碑など100余基が残されています。

農業のかたわら、土地固有の芸事として、農閑期に師匠から稽古を受け、身につけていった庶民によって創られ、伝え続けてきた文化です。

1993年（平成5年）に大阪府指定無形民俗文化

人形浄瑠璃



財、また1999年（平成11年）には、“浄瑠璃という芸能が地域に伝播し伝承される過程で、全国的にも希少な伝承のあり方を生み出したものであり、芸能の過程を知る上で重要”との理由で国の無形民俗文化財に選ばれました。

200年もの間語り継がれ、今なお親しまれているんですね。今では、浄るりシアターができて、人形浄瑠璃を上演されたりもしているようですね。

はい。永く伝えられた能勢の浄瑠璃を地域の財産として守り育てていくとともに、次の世代にむけての提案と発展のため、人形・囃子を加えたビジュアル化で、1998年（平成10年）に「ザ・能勢人形浄瑠璃」がデビューしました。人形首（かしら）、衣裳、舞台美術、演目（「能勢三番叟」「名月乗桂木」）はすべて能勢オリジナルということで、全国からも注目されました。

演目 名月乗桂木



浄るりシアターでの浄瑠璃月間公演や神社を舞台にした公演は、地域の資源を活かした文化の再発見にもつながっています。

「能勢の浄瑠璃」が、地域ブランドとして全国に認識されるよう、公演活動や体験講座の開催などを通じて幅広く情報発信していこうと思います。

浄るりシアター



最後になりますが、まちづくりについて、今後の抱負などを教えてください。

本町では、これまで紹介したまちの歴史、優れた景観や特産品、浄瑠璃をはじめとする文化等を後世に受け継ぐために、「自立経営プラン」を策定し行財政改革に取り組んでいます。

第4次総合計画の枠組みであるまちづくりのポイントは、①能勢の美しい景観と環境の育成、②人材の育成と能勢文化の創造、③ふれあいと生きがいのある地域づくり、④自然を生かした個性ある産業の育成の4点を柱としています。

地方分権が推進される一方で、地方交付税の削減等、地方公共団体を取り巻く環境は、厳しい状況にあり、とりわけ人口減少による税収の低下等財政基盤の脆弱な本町においては、より効率的・的確な財政運営が求められています。

本町が有する高い住民自治意識を礎に、住民と行政の協働の取組により、持続可能なまち「のせ」をめざし、第5次総合計画の策定に着手してまいります。

持続可能なまち「のせ」として、住民と行政の協働により能勢町がますます躍進されることを祈っています。

本日はお忙しい中、ありがとうございました。